

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475200885
法人名	株式会社 アイ/ディ/エス
事業所名	グループホーム バナナ園ほりうち家
訪問調査日	平成21年8月19日
評価確定日	平成21年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1475200885		
法人名	株式会社 アイ/ディ/エス		
事業所名	グループホーム パナナ園ほりうち家		
所在地	211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町2-1-12 (電話) 044-722-5361		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年9月30日

## 【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	8月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	4 人,	非常勤 4 人, 常勤換算 4.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋造り		
	2階建て	1階	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 210,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	370 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	130 円
	または1日当たり			円

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	58歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	あむろ内科クリニック
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームパナナ園ほりうち家は東急東横線新丸子駅下車徒歩8分とアクセスが良く、中原街道にも近く、大通りから少し入っている為交通量も少なく、平坦な道で古い商店街に面した環境にある。日本医大付属第二病院、聖マリアンナ東横病院等徒歩圏内に大型病院があり、応急体制も整っている。パナナ園の由来は、パナナは貴重な食べ物であり、誰にでも愛され、栄養価も高く、元気の出る食品であることから名付けられた。経営母体はアイ・ディ・エスで6グループから構成されており、本部にて月1回管理者会議、主任者会議等勉強会が開催され、相互の情報公開がされている。ホーム運営に関しては、画一的なものではなく、それぞれの管理者の主張がホームに反映され、特色のある運営がなされている。利用者の人格を尊重し、家庭的な雰囲気の中で自立支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 業務日誌の書き方を外部からの指摘によって改善を進めている。従来、利用者の毎日の血圧、体温等をグラフ化し、食事の仕方、薬の飲み方、徘徊状況等通常の生活状況を詳細に記入していた。今回、書き方を変えることにより、特別な状況や異常なことが発生した場合のみを重視し、それぞれの職員に伝えるようにしている。時間の短縮がなされ、利用者の世話に時間をかけるよう検討を加えている。さらに終末期の利用者に対しても十分に世話が行き届くよう医療面での充実を考え、交替で病院へ行き、処置の仕方について指導を受けており、職員のレベルアップがなされ、今後の活動に期待することができる。</p> <p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p>
	②	<p>職員とのミーティングを通して、それぞれの意見を管理者が吸い上げ、職員全体のレベルアップに繋がるよう質の向上に努めている。利用者が自然とのふれ合いを求め、ナス、キュウリ、トマト等の栽培を行い、また食後の食器類の片付け等自主的に行う気持ちを尊重している。職員がそっと見守り、後から手伝う場合もあり、利用者の積極的なやる気を引き出している。利用者の自主性を養うことにより、ホーム全体が活気に満ちたものとなっている。これら日常的な活動の中に自己評価での気付きを生かし活用するように努めている。</p> <p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 運営推進会議は3ヶ月に1回の年4回を開催することを考えている。同時に利用者会議、家族会も併せて実施しており、会議の前にボランティア(81歳)老先生によるハーモニカの演奏を実施、昔の曲が中心であり、曲目の解説等きめ細かい対応がなされ、皆さん真剣に聞き入っており、気持ちも和らぎ、スムーズに会議も進められ、効果が大きい。町内の行事、お祭り、盆踊り等への参加も呼びかけられ、さらに近隣のHさん宅へのお茶会やみかん狩りの招待もあり、町内の人とも密接する関係にある。毎月、パナナ園ニュースも周辺の方々配っている。</p>
重点項目	③	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 家族とのコミュニケーションを重視しており、家族との面会時に利用者との暮らしぶりについて直接話す場合と、毎月の請求書を送付する時に報告する場合とがある。家族によっては来園の回数が極端に少なく、預けっぱなしという場合もあり、できるだけホームの方へ足が向くよう工夫している。利用者は家族に会うことによって通常とは違う喜びの態度を示すので、対応が大切である。ホームとしての勉強課題として、夜勤時に男性1人で対応せざるを得ない場合、利用者(女性)が便失禁し、自分では処置できない時、どのように対処すべきか、家族との意見交換もなされている。</p>
重点項目	④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 利用者、職員が一体となって近隣との密接なつながりにより、関係がスムーズに機能するよう進めている。消防訓練など消防計画書を作成し、中原消防署に提出し、指導を受けており、夜勤時の消火活動は地域の方々による手助けが必要であり、日常生活を通して交流がなされている。角の薬屋さん等、必要な時にはいつでも言葉をかけて下さいと親切な対応もなされている。地域との連携はホームの行事等を通して理解を深めてもらい、協力が得られるということに重点を置き、日々これに努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ほりうち家の理念に基づき地域の中で一人ひとりが暮らしていく上で町内会のお祭りや総会など積極的に参加し、地域との共存を大切にしている。近隣のお誘いでのお茶会など全員にて参加したり、ありのままの一緒のケア、自由の原則にて日々入居者本位の暮らしを送れるよう支えている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の中で周知されている。明るく楽しく自由は入居者のみならず管理者職員が働く上で日々実践され、入居者の安心が図られている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りの参加、町内会総会の参加、民生委員の方とも懇意にしている。近隣の方々との交流を常に思っており、玄関に鍵をかけず自由に入出入りできるようになっている。運営推進会議への参加の声掛けにも努めている。地域との連携はホームの行事等を通して理解を深めてもらい、協力が得られるということに重点を置き、		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について職員一同が理解している。改善すべき点(食事管理、服薬管理チェック表に重複してチェックをすることで事故防止)など具体的に行ったこともある。これら日常的な活動の中に自己評価での気付きを生かし活用するように努めている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月に1度行い、川崎市担当者、県会議員、包括支援センターの方、ご家族、地元の方が参加され、その内容は議事録として残し、開示されている	○	今後、開催の回数等について検討して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県会議員、川崎市担当課長、包括支援センターの方々と推進会議の進行、サービスの質の向上について話し合いが行われている。福祉事務所、高齢者支援課、包括支援センター、県会議員の方々へ月に1度、バナナニュースを持参しての挨拶、運営推進会議への参加をお願い、そしてその結果報告をしている		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族とのコミュニケーションを大切にしている。面会時等、直接会う時と毎月の請求書送付時に行っている。日々の暮らしぶりは来園時報告している。時には電話などでも報告するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等、直接会う時と運営推進会議時に行っている。意見箱を用意し苦情など気軽に述べられるようにしている。家族がもっと主体的に意見を出せるよう、アンケート用紙を玄関に用意している。	○	家族等が意見等を表せる機会作りに努めて行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力配置異動を行わないようにし、又、急な異動、離職もないようにし、人材育成等の必要であれば居住地、経験等を踏まえた上で異動を行っている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては定期的な階層別研修を行っており、人材育成に取り組んでいる。新人の管理者や主任の会議に取り組んでいる。実践者研修、リーダー研修など出来るだけ受講できるよう薦めている。現在、介護福祉士資格を2名取得、又、1人は実践者研修、管理者研修受講済み。	○	今後も更に人材育成に取り組んで行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人自ら研修会で対外的に実施しており、管理者、職員が同業者との交流が図れるよう機会を設けている		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にお試し入園を行っている、家族の協力で外出、外泊が行われるようにしている、また、馴染みのものについてよくヒアリングし、徐々に馴染めるよう対応している。家族の相談は常に応じるよう心がけている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人と人との関わりがいかにか大切に職員が理解して、利用者は人生の先輩である尊敬の念を持ち、「共に生きる、共に寄り添う、共に成長する」心で支援している。ありがとうの気持ち声掛けを忘れないことを肝に銘じている。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアにおいて希望、意向の把握に努め、本人らしい生活を送れるよう心がけている。自由に楽しくの理念を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケア、家族の面会時、運営推進会議で得る情報を活かして介護計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	少なくとも3ヶ月に1度は見直しが行われ、必要であれば随時見直しを行っている。医療機関との協議を設けている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望に応じ、外食したり買物をしたり、また外出も援助し、家庭菜園等も活用し、事業所の多機能性を活用し、柔軟な支援を行っている。	○	リーダー研修の受講は終了し、ショートステイとデイサービスのためのハード面の検討をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との間に24時間の連携が行われている、隔週で行われている往診、そして毎年、健康診断も行われている。緊急時の対応も随時相談しており、信頼関係を築けている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に理解していただいている。入居者の状態を把握して対応がスムーズに行えるよう職員は情報を共有している。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや記録は毎日繰り返されることであり、損ねることがないように注意している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、レクリエーション、入浴等、当園が掲げる「自由の原則」にのっとり臨機応変に対応している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意思を尊重して準備片づけが毎日一緒に行っている。季節感のある素材やメニューなど一緒に考えて能力に応じて積極的に手伝いをしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思や体調を尊重し、週に2度は入浴できるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の一日の過ごされ方をまず尊重、そして張り合いを持っていただくため役割分担(食事の準備、洗濯物のたたみ、花の水遣り)や趣味、外出を心掛けている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車、徒歩での買い物、近くの神社への散歩、屋外での日光浴、バナナニュースを近所に配布、ドライブ等外出を心がけている。時にはトールコーヒーでコーヒータイムを取るなど楽しんで頂いている。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常出入口以外は常に開錠をし出入は自由であるが、見守りを怠らないようにしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年防災訓練を行い、災害時の避難場所等の設定も近隣の駐車場を前もって契約しておく等の協力を得ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ノート、業務日誌にメニューを記入、夜間の水分摂取は各個人の日誌に記入することにより管理している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくかつ落ち着いた雰囲気になるよう配慮し、目に付くところにカレンダーやスナップ写真、入居者が作られた季節の飾り物を飾るなど工夫している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、置物等室内スペースがあるので、いろいろと置かれている。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム バナナ園ほりうち家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市中原区小杉陣屋町2-1-12
記入者名 (管理者)	木村 仁子
記入日	平成 21年 7月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ほりうち家の理念に基づき地域の中で一人ひとりが暮らしていく上で町内会のお祭りや総会など積極的に参加し、地域との共存を大切にしている。近隣のお誘いでのお茶会など全員にて参加。ありのまま一緒にケア、自由の原則にて日々入居者本位の暮らしを送る		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の中で周知されている。明るく楽しく自由は入居者のみならず管理者職員が働く上で日々実践され、入居者の安心が図られている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	開設時より地域交流会を行い、近隣の方々入居者の家族との交流が行われてきた。多いときは50名位の参加されたことも、今では運営推進会議がおおむね2ヶ月に1度行われ、同時に開設時からのほりうち会(地域交流会)もある。バナナニュースは月に1度の配布、また町内会長の好意により町内会掲示板にも掲示されている		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月バナナニュースを入居者と職員が近隣一軒一軒配布、顔を覚え自然と挨拶が出来るようになる。回覧板を回す時に立ち話をするのもしばしば、スーパーでの買い物時、「今日は誰誰さん一緒じゃないの?」と入居者の名前を覚えてくださる方もいる		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りの参加、町内会総会の参加、民生委員の方とも懇意にしている。近隣の方々との交流を常に思っており、玄関に鍵をかけず自由に出入りできるようになっている。運営推進会議への参加の声掛けにも努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2ヶ月に1度の地域交流会において、地域の方々の参加を呼び掛け、また、消防署を呼んでの消防訓練を行っているが、その際地域の高齢者にも声掛けし参加を促している	○	デイサービス、ショートステイなども事業所の力を活かし、地域への貢献が出来るための準備としてリーダー研修を受講済み
---	----------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------	---	----------------------------------------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について職員一同が理解している。改善すべき点(食事管理、服薬管理チェック表に重複してチェックをすることで事故防止)など具体的に行ったこともある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1度行い、川崎市担当者、県会議員、包括支援センターの方、ご家族、地元の方が参加され、その内容は議事録として残し、開示されている	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県会議員、川崎市担当課長、包括支援センターの方々と推進会議の進行、サービスの質の向上について話し合いが行われている	○	福祉事務所、高齢者支援課、包括支援センター、県会議員の方々へ月に1度、バナナニュースを持参しての挨拶、運営推進会議への参加お願い、そしてその結果報告をしている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人、生活保護制度の研修受講。福祉事務所、高齢者支援課の方々から意見をいただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員は「身体拘束ゼロへの手引き」の元で勉強し周知している。基本的な人権を尊重し、ほりうち家において虐待はありえない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分にしている。GHは家族の協力が重要であることを特にお伝えし、理解の下協力を得ている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で意見を汲み取るよう心がけている。又、ご意見箱を玄関に用意し意見を出しやすしている。2ヶ月に1度の運営推進会議に図り運営に反映させるようにしている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とのコミュニケーションを大切にしている。面会時等、直接会う時と毎月の請求書送付時に行っている。日々の暮らしぶりは来園時報告している。時には電話などでも報告する		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等、直接会う時と運営推進会議時に行っている。意見箱を用意し苦情など気軽に述べられるようにしている	○	家族がもっと主体的に意見を出せるよう、アンケート用紙を玄関に用意している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・主任会議に取り上げられている、ケアに関しては職員の意見を反映するようにしている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の意見を確認した上で可能な範囲の中で勤務の調整を行い、臨機応変な対応を心掛けている。特に管理者、主任は家族の要望である時間に対応できるよう調整を心掛けている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力配置異動を行わないようにし、又、急な異動、離職もないようにし、人材育成等の必要であれば居住地、経験等を踏まえた上で異動を行っている		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内においては定期的な階層別研修を行っており、人材育成に取り組んでいる。新人の管理者や主任の会議に取り組んでいる</p>	○	<p>実践者研修、リーダー研修など出来るだけ受講できるようにしたい。現在、介護福祉士資格を2名取得、又、1人は実践者研修、管理者研修受講済み。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人自ら研修会で対外的に実施しており、管理者、職員が同業者との交流が図れるよう機会を設けている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>本部機能の総務、人事担当が対応しており、研修旅行を企画したり、残業を行わないよう指示している</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事評価制度を踏まえ研修会開催による資格取得の推進、昇格、昇進等に行っている</p>	○	<p>自社研修はもとより外部からの研修案内にも参加し、職員のレベルアップを図りたい。新任職員、非常勤職員の研修を行っている。</p>

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の了承を得た上で部屋に訪問し、困っていること等の相談に当たるなど一対一での対応を心掛けている。心理状態を把握し環境に慣れていただくためお試し入居の形を考へることもある</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメント、モニタリングをさせていただき、家族の不安などをじっくり聞くようにしている。最初の見学時も2時間位の面接時間をとり、現状をしっかり把握して、必要があれば電話などでの相談も常に気軽に受けている</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>出来るだけ一人のみの面談ではなく、複数で面談した上で見極め全職員のケア会議でそのことに関して意見を出し合い対応に心がけている</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にお試し入園を行っている、家族の協力で外出、外泊が行われるようにしている、また、馴染みのものについてよくヒアリングし、徐々に馴染めるよう対応している。家族の相談は常に応じるよう心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人と人との関わりがいかにか大切に職員が理解して、利用者は人生の先輩である尊敬の念を持ち、「共に生きる、共に寄り添う、共に成長する」心で支援している。ありがとうの気持ち声掛けを忘れない		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を重要と感じており、特に訪問された時はコミュニケーションをとること大事にしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のコミュニケーションが取れていることが、関係の理解には必須であると考え支援している。日常の報告は重要であり欠かさない		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の心の支えとなるものと理解し、関係維持に支障がないよう心がけている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の係わり合いを見守り、支援が必要とあれば支援する。円満な関係を心掛け安心して生活していただけるよう支援している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設への訪問は自由であり、契約が終了したとしても要請があれば対応するよう心掛けている		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアにおいて希望、意向の把握に努め、本人らしい生活を送れるよう心がけている。自由に楽しくの理念を心がけている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでまず把握に心がけ、その後のケア、家族訪問時などで更なる情報収集に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアにて見落としがないよう心がけ、3ヶ月に1度のケアプラン見直しに反映させている		

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケア、家族の面会時、運営推進会議で得る情報を活かして介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	少なくとも3ヶ月に1度は見直しが行われ、必要とあれば随時行われる。医療機関との協議を設けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにて見落としがないよう心がけ、情報共有の必要性から個別記録の記入の重要性は理解され、介護計画の見直しに活かされている		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望に応じ、外食したり買物をしたり、また外出も援助し、家庭菜園等も活用し、事業所の多機能性を活用し、柔軟な支援を行っている	<input type="checkbox"/> リーダー研修の受講は終了し、ショートステイとデイサービスのためのハード面の検討をしている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年行われる防災、救急訓練、毎月の民生委員との連絡、ボランティアは毎月来られる		
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本部主催の研修会を通じ、地域の他事業者と交流し、必要であれば他のサービスを利用することも柔軟に対応する。運営推進会議などをバナナニュースなどでお知らせしている		
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議など交流会に参加していただき、質疑応答に応じていただくなど協働に努めている		
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との間に24時間の連携が行われている、隔週で行われている往診、そして毎年、健康診断も行われている。緊急時の対応も随時相談しており、信頼関係を築けている		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<input type="checkbox"/> 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隔週で往診していただくかかりつけ医がいて診断や治療が受けられる。なお本部顧問で認知精神科専門の大学教授にいつも支援していただくことが出来る		
	<input type="checkbox"/> 看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師と準看護師が職員として勤務してい、又、訪問看護も月に一度受ける等、日常の健康管理はもちろんのこと、必要とあれば随時会議を行って支援している		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医(または入院先)と家族は密に相談をし、退院についても可能であれば対応し、戻れない場合は次の施設などを主治医、ケースワーカー、家族と常に相談する		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に理解していただいている。入居者の状態を把握して対応がスムーズに行えるよう職員は情報を共有している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、かかりつけ医、看護師、職員で常に話し合い、予期できることについて周知する。終末期の場合、指針について会議を設け密に対応する		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	契約終了時、ケア関係者で十分な情報交換を行い、住み替えによるダメージを防げるよう対応(モニタリング、ケアプラン、情報交換)を図る		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや記録は毎日繰り返されることであり、損ねることがないように注意している		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	決めるのが難しくならないように短い言葉で説明するのを心掛け見守る。行動や雰囲気が必要と判断すれば支援する		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、レクリエーション、入浴等、当園が掲げる「自由の原則」にのっとり臨機応変に対応している		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に2ヶ月に1度、訪問理容していただいているが、本人の希望に沿って対応している。外出時は服やバックなど本人の希望を優先し、清潔感を保つよう心がけている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意思を尊重して準備片づけが毎日一緒に行われている。季節感のある素材やメニューなど一緒に考えて能力に応じて積極的に手伝いをしていただいている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日のお茶、おやつ時、好みの物の希望をお聞きし柔軟に対応している		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者全員、自力で排泄でき、トイレも3ヶ所ある。リハビリパンツ使用している方が多いが、汚染による不快感を与えないよう注意している		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思や体調を尊重し、週に2度は入浴できるよう支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠のための昼間の過ごし方に留意し、また高齢、ペースメーカー使用の方がいるので休息を取って疲れないよう、日中の活動時間を調整する		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の一日の過ごされ方をまず尊重、そして張り合いを持っていただくため役割分担(食事の準備、洗濯物のたたみ、花の水遣り)や趣味、外出を心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使用して自分のものを買いたい物される楽しみを味わっていただくよう心がけている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車、徒歩での買い物、近くの神社への散歩、屋外での日光浴、バナナニュースを近所に配布、ドライブ等外出を心がけている。時にはドトールコーヒーでコーヒータイムを取る		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車を利用して各季節の行楽、そしてお昼の夕食等屋外でのレクリエーション、お祭りなどの参加も心がけている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日の生活の中で入居者の希望に即対応するのみでなく、出来る限り家族とのつながりを持つように職員が働きかけをしている		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員の都合を優先することなく、門戸をいつもオープンにして気軽に訪問をしていただき、おもてなしの気持ちを持って対応している		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社理念である「自由の原則」を念頭に置き、出来る限り身体拘束を避けるケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常出入口以外は常に開錠をし出入は自由であるが、見守りを怠らないようにしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しつつも各個人の自室に入室する際にも、安全は職員の見守りでカバーするように心がけている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの物品の保管については危険防止に配慮しつつ、馴染みの道具類は身近に備えるような配慮は怠らない		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等の事故発生には極力回避するように配慮し、職員も防ぐための知識を得るために極力研修に参加する等の努力を重ねている		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	少なくとも年に一度、地域の消防署の協力を得て救急対応等の訓練に取り組んでいる		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年防災訓練を行い、災害時の避難場所等の設定も近隣の駐車場を前もって契約しておく等の協力を得ている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時における家族との話し合いでリスク対応に関して十分な確認を得るように努めている		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者との係わり合いを密にして体調の変化の気付きに配慮するように努め、医療者、職員の一人である看護師、家族とも情報を共有する		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の一人である看護師のアドバイスを得てチーム全員が入居者服薬状況を把握し、誤薬事故は避けるように努める。服薬セット者はサインを銘記する		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のリズムを把握し体を動かすことを心がけ、水分摂取、毎食の献立に繊維質を多く取り入れるようにする等の配慮をしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	少なくとも朝夕の口腔ケアは行い、可能な方には毎食後も行うように声掛けをしている。指定の歯科医による定期診療、口腔セミナーも実施している		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ノート、業務日誌にメニューを記入、夜間の水分摂取は各個人の日誌に記入することにより管理している		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年一回インフルエンザ予防接種をし、布団干し、環境整備は徹底して行っている。面会者にも消毒を徹底している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	その日の食材はその日に仕入れる。管理場所を決め把握しやすくしている。塩素系の消毒薬にて毎日食器の消毒を徹底している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口玄関周りに花を飾る、元住居を使用していて入口も広いので入りやすい		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくかつ落ち着いた雰囲気になるよう配慮し、目に付くところにカレンダーやスナップ写真、入居者が作られた季節の飾り物を飾る		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のほかりビングルームを確保、また2階には共同空間としてソファを設置		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、置物等室内スペースがあるので、いろいろと置かれている		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝掃除時には各窓を開け、換気している、天気がよほど悪く無ければ昼間も換気している</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段は急であるが手に物を持たず、両手で手摺りをつかみ上り下りしていただいている</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の日々の状況を把握しつつ、尊厳の気持ちを失わないで対応するように努めている</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダは無いが住宅地であり庭や前の路地など環境には恵まれ楽しませている</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・先駆的な地域密着を開設当初から行い、運営推進会議、地域密着については川崎市のモデルとなっている。地域密着のみならず、地域再創造、再構築の拠点として、これからも大きな責任を果たしてまいります。「地域がほりうち家応援団！」
- ・職員の定着率が高いため結束力が高く、かつ入居者に対してリロケーションダメージがなく、穏やかな環境があります。
- ・専門的な見地と共に入居者主体、主人公であることを第一に、入居者一人ひとりの人格を尊重しております。
- ・家族・近隣の方々の強いご支援をいただいております。